

◎線の長さや方向に気をつけて書きます

平成24年度 全国硬筆コンクール課題参考手本

大平恵理書

三年	学年		水	し	は	行
	氏名	まっすぐ下へ	に	か	た	く
		中心を目安に書き出す	あ	も	え	か
		半分を目安にたてに引く	あ	も	ず	わ
			ず	と	て	の
				の		流
					机	

Annotations in image:  
 - Water (水): カップ (cup)  
 - Shi (し): たまがたに (to the right)  
 - Ha (は): そろえる (align)  
 - Ka (か): とめる (stop)  
 - Ta (た): とめる (stop)  
 - Ku (く): 止める (stop)  
 - Ka (か): はねる (bounce)  
 - Wa (わ): 少し出る (slightly out)  
 - No (の): 中心から書き出す (start from center)  
 - Ri (り): 止める (stop)  
 - Te (て): 止める (stop)  
 - Ryuu (流): 下をそろえる (align bottom)  
 - Ki (机): 止める (stop)  
 - Mo (も): 中心から書き出す (start from center)  
 - To (と): このあたりから (from here)  
 - No (の): 止める (stop)  
 - Su (す): あがる (rise)

課題解説

移り行く

約800年前に書かれた鎌倉時代初期のずいひつ『方丈記』の有名な書き出しです。川はつねに流れている・・・と、当たり前のことと言っているのですが、なにか深い思いが伝わってきますね。「淀みに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし」とつづきます。うたかたは泡のこと。泡も、できては消えて、そのままということはありせん。物事はどんどん変わっていきます。人の一生も同じですね。

『方丈記』——中世文学を代表する随筆で作者は鴨長明。歌人としても活躍しました。『方丈記』は和漢混交文で書かれ、移り行くもののはかなさを描いた無常観の文学とも言われます。

角川学芸出版  
「えんぴつ文字練習帳(中級編)」所収